

二三〇九番

祝部はふりらが 齋いはふ社やしうの もみち葉はも 標しめなはこ縄越えて
散ちるといふものを

二三一〇番

こほろぎの 我あが床とこの隔へに 鳴なきつつもとな 起お
き居ゐつつ 君きみに恋こふるに 寝いねかてなくに

二三一一番

はだすすき 穂ほには咲さき出でぬ 恋こひを我あがする 玉たま
かぎる ただ一ひとめ目のみ 見みし人ひとゆゑ故ゆゑに